

でんでん通信 第百四十一号 平成二十九年九月

坐禅会

今日は、九月二十日(土)午前十時より坐禅会を行います。みなさんのご参加をお待ちしております。

トイレのはなし

当禅林寺の境内に入ると東にお手洗いがあります。このお手洗いに上ったの方に

「烏枢沙摩明王」が祀られています。ご存知でしたか？

この烏枢沙摩明王は、元々インド神話に登場する火の神アグニで、日本には弘法大師によってもたらされたそうです。

この明王は炎を背にして怒った姿で表される事が多く、燃え盛る炎で、人間の勝手な思い込みや分けへだてをする心を戒め、この世の汚れを焼き尽くし、あらゆる不浄を清浄に変えてくださる功德があるともいわれます。そのためお寺や修行道場では、東に司ると書く「東司(とうす)」と呼ばれるお手洗いに明王をお祀りしています。お手洗いは、私たち人間にとって、とても大切な場所です。

お手洗いで、普段の生活での飲み食いの様子やお腹の具合、どんな生活態度で過ごしていたのか、健康状態はどうかということまで、表れてきます。毎日の生活そのものを調えることが大切となり、その意味でも修行道場での「東司」、お手洗いで作法も大切な修行の一つとされてきました。

「トイレの神様」という歌が一時ヒットしました。「トイレには、それはそれはキレイな女神様がいるんやで」と唄われていましたが、お寺には明王さまがいるのです。

ダスキンの創業者の鈴木清一氏は、京都の一燈園というお寺で修行をされ、トイレ掃除こそ自己を磨くよき修行であるとされていきました。その修行とは、路頭に立ち、各家庭を訪問しトイレ掃除をさせてもらうことです。一般家庭を二百軒訪問して、やっと一軒くらいが、トイレ掃除を許してもらえたそうです。他人の家を訪問して頼むのも、他人のトイレを掃除するのも、すべて自分の我を捨てなければできないことです。その掃除も半端ではなく、隅から隅まで、ぴかぴかに磨き上げるそうです。『我欲』がなくなり『謙虚』になる！そして、今生かかせていただいていることに感謝する、修行によって、このことが会得できたからこそ、立派な経営者になれたのだといえます。

また自動車関連会社のイエローハット相談役の鍵山秀三郎氏も、「全国掃除に学ぶ会」の活動で次のように話されています。

一、謙虚な人になれる
どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一条件は、まず

謙虚であること。謙虚になるための確実で一番の近道が、トイレ掃除。

二、気づく人になれる

世の中で成果をあげる人とそうでない人の差は、無駄があるか、ないか。無駄をなくすためには、気づく人になることが大切。気づく人になることによって、無駄がなくなる。その「気づき」をもっとも引き出してくれるのがトイレ掃除。

三、感動の心を育む

感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人と手と足と体を使い、さらに身を低くして一所懸命取り組んでいる姿に感動する。

特に、人のいやがるトイレ掃除は最高の実践道場。

四、感謝の心が芽生える

人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、トイレ掃除をしていると小さなことにも感謝できる。感受性豊かな人間になれる。

五、心を磨く

心を取り出して磨くわけにいかないのです、目の前で見えるところを磨く。特に、人の嫌がるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てくる。

トイレについて調べるとたくさんいいことが出てきます。烏枢沙摩明王の梵字は運(ウン)という字だけに、繁栄に通じるのかもかもしれません。